



横浜市青葉区と東京都町田市にまたがるこどもの国 2008.3.30撮影

平成19年度(第53回)全国溶接技術競技会開催

神奈川県代表 半自動溶接で優勝

溶接技量日本一を競う平成19年度(第53回)全国溶接技術競技会・東部地区支部群馬県大会は平成19年10月27日(土)に開会式・競技説明会を群馬県前橋市・前橋テルサで行い、28日(日)に競技会が前橋市群馬県立群馬産業技術センターに於いて開催された。

参加選手は被覆アーク溶接の部56名、半自動溶接の部56名合計112名の選手が全国都道府県代表として溶接日本一獲得を目指して技を競った。

神奈川県代表は平成19年度神奈川県溶接技術コンクール被覆アーク溶接第1部、半自動溶接第1部でそれぞれ1位2位になられた各2名合計4名の選手が参加した。

成績は半自動溶接の部で(株)東芝京浜事業所の清水茂寿さんが1位(最優秀賞)となり昨年の手溶接優勝に続けて2年連続神奈川県が全国優勝を果たした。得点は790点(800点満点)と稀に見る高得点であった。

他の3選手も日頃の実力を発揮して1人が優良賞に入賞する好成績を収めることが出来た。

平成20年度は10月18日19日に福井県 福井産業技術センターで開催されます。

平成19年度の優勝選手は下記の通りです。

被覆アーク溶接の部 愛知県代表 村嶋 学さん トヨタ自動車(株)
半自動溶接の部 神奈川県代表 清水 茂寿さん (株)東芝京浜事業所

神奈川県代表選手成績

被覆アーク溶接の部

(株)IHI 横浜第1工場

相澤 清志さん 10位 優良賞

富士電機システムズ(株)

三島 義徳さん

半自動溶接の部

(株)東芝京浜事業所

清水 茂寿さん 1位 最優秀賞

住友重機械マリンエンジニアリング(株)

齋藤 哲也さん



写真左から優勝した清水さん、相澤さん、齋藤さん、三島さん

平成19年度（第53回）全国溶接技術競技会・入賞者 （被覆アーク溶接の部）

入賞区分	都道府県	氏名	所属
最優秀賞	愛知県	村嶋 学	トヨタ自動車(株)
特別優秀賞	広島県	中本 和臣	マツダ(株)
優秀賞	鹿児島県	若松 幸司	榊相良製作所
〃	兵庫県	小川 展正	三菱重工業(株)高砂製作所
〃	茨城県	須藤 隆	日立製作所 日立事業所
〃	熊本県	北岡 昭二郎	ユニバーサル造船(株)有明事業所
〃	東京都	板橋 嘉之	榊前川製作所
優良賞	静岡県	田中 豪人	榊太徳工業
〃	長崎県	立花 伸吾	三菱重工業(株)長崎造船所
〃	神奈川県	相澤 清志	榊I H I横浜第一工場
〃	北海道	上田 紳	榊協和プラント
〃	北海道	田中 一樹	榊植崎製作所
〃	福岡県	高橋 英文	エムイーシーテクノ(株)九州事業所
〃	兵庫県	柴田 寿一	三菱電機(株)伊丹製作所
〃	福島県	熊倉 一記	協三工業(株)
〃	岐阜県	岩佐 富雄	(有)岩佐溶接鉄工所
〃	大阪府	佐藤 友和	榊高田工業所 大阪事業所
〃	千葉県	佐久間 賢二	榊高田工業所 君津支社
〃	佐賀県	寺田 茂喜	榊田中鉄工所

（炭酸ガスアーク溶接の部）

入賞区分	都道府県	氏名	所属
最優秀賞	神奈川県	清水 茂寿	榊東芝 京浜事業所
特別優秀賞	広島県	江藤 卓	マツダ(株)
優秀賞	岡山県	近藤 啓司	J F Eメカニカル(株)倉敷事業所
〃	静岡県	有馬 信一	トヨタ自動車(株)東富士研究所
〃	群馬県	根岸 正典	東急車輛製造(株)群馬製作所
〃	大阪府	山下 直	榊小松製作所 大阪工場
〃	愛知県	宮本 晋也	トヨタ自動車(株)
〃	福島県	渡辺 賢史	東開工業(株)
〃	和歌山県	藤井 直也	東急車輛製造(株)車両事業部和歌山製作所
優良賞	石川県	立花 和哉	榊小松製作所 粟津工場
〃	新潟県	亀谷 毅	東日本旅客鉄道(株)新津車両製作所
〃	沖縄県	比嘉 義弘	榊仲本工業
〃	山形県	板橋 誠	榊ムラヤマ
〃	秋田県	加藤 誠	千代田興業(株)
〃	岩手県	早坂 芳輝	北日本機械(株)
〃	香川県	木内 俊輔	榊タダノ
〃	北海道	高橋 誠	阿部鋼材(株)
〃	宮崎県	甲斐 邦広	向陽鉄工(株)
〃	群馬県	香田 豊	三洋東京マニュファクチャリング(株)



選手を囲んで支部長と付添い全員集合



歓迎 群馬名物八木ぶし

全国溶接技術競技会に優勝して

(株)東芝京浜事業所
清水 茂寿



全国溶接技術競技会への初参加は入社4年目の平成13年で、全国レベルの競技会という興味もあり、ひたすら練習を行い大会に臨みましたが、結果は実力の差を見せつけられ入賞外でした。平成14年、15年については、曲げ試験の結果が悪く、県大会優良賞止まりの成績であり全国大会出場は果たせませんでした。次の平成16年の県大会で入賞外となり、なぜこんなに練習しているのに勝てないのか自信をなくしてしまいました。次の年は、大会に出場しても勝てる気がなくどうせ曲げ試験で失敗するだろうと自信喪失で出場を断念しました。

転機になったのは、平成17年度の担当替えでした。それまでは比較的ティグ溶接が多い原子力機器の溶接を担当していましたが、半自動溶接のレベルが高い水力発電設備機器に担当替えになり、これまでの自分の技量が全く通用せず、先輩方から基本を一から教わりながらの作業でしたが、先輩方のアドバイスと自身の努力で半自動溶接の技量レベルの向上を実感しました。そしてその上達ぶりが社内で認められ、上司の薦めもあって5度目となる平成18年度の県大会に再チャレンジし、過去最高成績の準優勝で全国大会に出場しましたが、過去に失敗していた曲げ試験が原因で入賞外の成績に終わり、さらに、神奈川県代表選手(4人)で入賞できなかったのは自分だけという非常に悔しい思いをしました。全国の上位を狙うには「曲げ試験に対する課題を克服するしかない」と決意を新たに、平成19年度大会の練習では曲げ試験の克服の一点において練習を行いました。会社の協力を得て、自分では観察できない溶接中の裏波形成の状態をビデオに撮影してもらい、どうすれば上手く曲がるのかを研究し溶接条件等の分析をしました。結果、県大会で優勝し、県の代表として全国溶接競技大会へ出場するチャンスを得ました。全国大会の練習では、試験片1枚溶接する毎に曲げ試験を行い、どの溶接条件が最適かなどを研究する等曲げ試験に対する練習を強化し大会に挑みました。

「曲げ」という最大の課題を克服した自信と競技結果が楽しみな気持ちと緊張感の中で競技をスタートしましたが、手元の電流計と溶接機の電流の数値に微妙な誤差が生じ、調整に手間取って時間ばかりが過ぎて行く結果となり、最終的にはアークの音、自分の目など、自分の経験や勘を信じて競技材に臨みました。競技が終わってから完成品の展示をみたとき、自分と同じぐらいのレベルの人が数名いましたが、優勝を含めて上位5位以内に入る自信はありました。数ヶ月後上司より「全国優勝」したとの連絡を受けた時は、嬉しさと共に自分なりに工夫してきた練習方法が間違っていなかったと思いました。また、溶接に完璧というものではなく、溶接が上手くなるには努力と経験を積み重ねて行くことを改めて痛感しました。

最後にこの様な貴重な体験をさせていただいた会社関係者に感謝しています。また今後も後輩達がこの大会に挑んでいくと思われるので、その際は自分の経験を生かしてアドバイスなどの援助を行っていきたくと思っています。

支部活動を顧みて

(社)日本溶接協会 神奈川県支部
前 支部長 相原 正公



ご無沙汰致しております。支部会員の皆様におかれましてはご健勝でご活躍の事と思います。早いもので私が退任致し1年が過ぎようとしております。この間昨年の9月には支部創立50周年式典が華やかに行われ神奈川県支部の長い歴史や諸先輩が築かれた功績を回顧しながら感無量の思いで式典に参加させて頂きました。また、私事ですが皆様のご支援により支部を代表致しまして神奈川県知事より感謝状を頂く栄誉に授かりました。本当に有難うございました。

さて、私は昭和62年支部役員として始めて神奈川県支部とお付き合いする事になりました。その時の支部長は三上さんでしたが、老齢ながらユーモラスとウィットに富んだ支部長で、各理事さんも経験豊かで私にとっては雲の上の人ばかりと記憶しています。次に支部長は隈部さんに引き継がれ私は監事を2期努めさせて頂きました。年に一度行う監査はキングファイル4～5冊有りました。監査する人が監査される人から教わるのはおかしい話ですが、監査のポイント、テクニックを事務局の森島さんから手ほどきを受けながら行った事を今でも鮮明に覚えています。私の前任支部長であられる池田さんには仕事を通じて公私に亘り大変御世話になっておりました。その池田さんが都合により任期半ばで退任される事になり、平成8年度の支部総会において副支部長であった私が急遽支部長をお引き受けする事になりました。まだ私は50歳前でしたからこの若い私に大役が務まるのか不安でしたが、副支部長を始め理事・監事さんそして事務局の皆さんの支援と協力を頂きながら平成18年度まで11年間支部長を務めてまいりました。思えば昭和62年から約20年間支部とは本当に長いお付き合いでしたが、支部活動を通じて多くの人と知り合えた事が私の人生最高の宝物と思っています。最後になりましたが、支部並びに会員各企業の発展と支部役員、関係者皆様のご健勝とご活躍を祈念致しお礼の挨拶に変えさせていただきます。

技術講演会の報告 ”溶接技能のデジタル化による溶接の基礎と新展開”

平成20年3月6日(木)に横浜市中区尾上町の神奈川中小企業センターに於いて標記講演会を開催しました。遠くは静岡、茨城県からの参加もあり60名の参加者は大変熱心に聴講されていました。

この講演会は、いわゆる「団塊の世代」の大量定年期を迎えるに当たり、技術・技能の継承を次世代に伝え、また活用していただくことを目指して熟練溶接士の技能やノウハウをデジタル化を図ることにより指導可能な育成システムを研究・開発してまいりました下記2氏に講演して頂きました。

1. 職業能力開発総合大学校教授 安田 克彦氏
『溶接技能の解析とその利用技術』
2. (株)東芝京浜事業所 溶接センター長 浅井 知氏
『溶接技能デジタル化による技能伝承支援』
3. ビデオ上映 『手溶接技能の伝承』



見学会の報告

去る3月14日、恒例の神奈川県支部見学会は定員オーバーの55名の参加者で開催した。今年の見学先は横浜市金沢区の東急車輛製造(株)および金沢区福浦の三菱重工業(株)横浜製作所金沢工場を見学した。東急車輛製造(株)では電車の製造工程について主にステンレス車輛の製造について見学した。三菱重工業(株)横浜製作所金沢工場ではボイラ工場、ディーゼルトービン工場、風車発電実証機を見学した。下の記念写真は風車発電機の羽の前で写したものです。



溶接技術コンクールに参加ませんか

平成20年度(第51回)神奈川県溶接技術コンクール

第1部
主催 神奈川県・(社)日本溶接協会神奈川県支部



全国溶接技術競技会代表選考会を兼ねています。

◆期日及び会場

平成20年6月13日(金)
会場 (財)日本溶接技術センター *申し込み期限は5月15日です。

◆コンクール競技課題

①手溶接第1部 ②半自動溶接第1部
※競技は手溶接・半自動溶接とも薄板(3・2mm)の立向き、中板(9mm)の横向き溶接です。

◆参加料

18,900円 (神奈川県支部会員は15,750円)

◆表彰

成績優秀な優勝者及び所属事業所に神奈川県知事賞ほか、(社)日本溶接協会神奈川県支部長賞など幾つかの表彰があります。

◆全国溶接技術競技会への推薦

手溶接・半自動溶接それぞれ1位2位の方を10月18・19日に福井県で開催する全国溶接技術競技会に神奈川県代表として推薦します。

◆申し込み・及び詳細の問い合わせは下記へ(事務局)

(社)日本溶接協会神奈川県支部
〒210-0001 川崎市川崎区本町2-11-19 電話(044)233-8367 Fax(044)246-5265
参加申込者には後で詳しい参加要領をお送りします。

神奈川県代表2年連続優勝

平成18年度 手溶接 柳内 信吾 君 (株)IHI 横浜第一工場
平成19年度 半自動溶接 清水 茂寿 君 (株)東芝京浜事業所



ゼッケン40番が19年度優勝の清水茂寿君です。

第51回(平成20年度)神奈川県溶接技術コンクール・第2部

主催 神奈川県・(社)日本溶接協会神奈川県支部



JIS溶接検定試験を受けて、溶接コンクールに参加できます!

あなたも溶接コンクールに参加しませんか

割安の検定料
10,000円

◆期日及び会場

平成20年6月13日(金)
会場 (財)日本溶接技術センター
*試験(溶接コンクール)の申込締切りは5月14日です。

◆参加資格

神奈川県内の中小企業から推薦された方又は県内在住、在勤の個人

◆試験実施種目(コンクール競技課題)

①手溶接第2部 JIS溶接検定試験種目A-2V(立向)とA-2H(横向)
②半自動溶接第2部 JIS溶接検定試験種目SA-2V(立向)とSA-2H(横向)
※いずれも板厚9mm裏当て金ありです。
※初めて検定試験を受ける方は学科試験と基本級(下向き・A-2F又はSA-2F)も受験します。詳細はお問い合わせください。

◆参加料

10,000円 (検定試験のみの方は別途料金です)
※参加料は検定試験及び溶接コンクール参加の料金です。
※通常上記検定試験を受けようとする試験の料金は手溶接が14,000円、半自動溶接が14,840円です。今回は、10,000円で検定試験とコンクールの参加が出来ます。是非この機会に参加してみてください。

◆表彰

成績優秀な優勝者及び所属事業所に神奈川県知事賞ほか、(社)日本溶接協会神奈川県支部長賞など幾つかの表彰があります。

◆申し込み・及び詳細の問い合わせは下記へ(事務局)

(社)日本溶接協会神奈川県支部
〒210-0001 川崎市川崎区本町2-11-19 電話(044)233-8367 Fax(044)246-5265
参加希望者は同封申込書を(社)日本溶接協会神奈川県支部へお送りください。

評価試験情報

試験申込書に添付する写真について

写真は、試験申込書の写真貼り付け欄に黒い影で顔の大きさが描いてあります。その大きさの顔写真を貼り付けてください。最近6ヶ月以内に撮影したものです。写真が小さい場合は受付できませんので注意してください。また、写真が添付されていない場合も受付できませんので必ず添付してください。

更新試験(再評価試験)について

- 更新試験の受験期間が次のようになっています。
更新試験の受験期間は技術資格の有効期限が切れる8ヶ月前から2ヶ月前までに試験を受けなければなりません。
- 更新試験に合格した場合は資格の登録日が現在資格の有効期限に合わせて登録されるようになっています。
- 上記期間外に受験する場合は有効期限内であっても、新規試験(学科試験免除)で基本級も受験しなければなりませんのでご注意ください。
- 更新試験と同時に新規種目も受験出来ますが、この場合は新規試験(学科試験免除)扱いとなり左記②の扱いは受けられません。
- ②の扱いを受けようとする場合は新規試験及び更新試験それぞれ試験申込書を別にしてください。
- 登録年月日と有効期限が同じで証明書番号が異なる別々の資格を一枚の試験申込書で申し込んで受験する場合は現在のところ更新試験の扱いにはなりません。
新規受験になってしまいますのでご注意ください。
更新試験の扱いを受ける場合は、申込書を別々にして下さい。
- 試験結果の発表は、毎月の15日以前の試験は翌月末の発表です。16日以降の試験は翌々月末の発表です。

(写真全面貼付)

最近6ヶ月以内に脱帽で上半身を撮影したものを。

写真のサイズ

縦4.5cm×横3.5cm

パスポート用

証明書の写真になるので、上記サイズを厳守すること。なお写真貼付に際しては、必ず右肩を用紙に合わせて枠内に貼ること。

サーベイランス(継続試験)と更新試験(再評価試験)

溶接適格性証明書には登録年月日(発行年月日)と有効期限が記載されています。サーベイランスとは書類のみの手続きで試験はありません。有効期限の3ヶ月前から期限の日までに手続きをしてください。必ず有効期限の3ヶ月前に通知を出しています。最初(1回目)のサーベイランスをしないと2回目のサーベイランスの通知は行きません。サーベイランスは2回です。

サーベイランスを2回されると、次は更新試験(再評価試験)になります。実技試験を受け直して合格されますと新しく証明書が発行されます。但し、1回目のサーベイランス又は2回目のサーベイランスをされませんと更新試験の案内も行きませんのでご注意ください。